
わが少年の日常のかがやき（発掘編）

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わが少年の日々のかがやき（発掘編）

【Nコード】

N6470S

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

今はもうどこにもない少年時代の思い出です。

私は少年時代、中学生の頃、考古学と遺跡発掘に目覚めて取り付かれてしまったことがあった。色々研究して独学で、知識も得ていた。

その頃、私の住んでいた、田舎町のハズレに、河岸段丘がありそこからは縄文時代の住居跡や、貝塚が幾つもあって、それらはまだ未発掘で誰も知らずに、

私は休みの日には、シャベルと鍬を持って発掘に行くのである。

川のほとりの一段高くなったところは、洪水の心配もなく、縄文人はそこを格好のねぐらにしたのであろうか？魚の取れる川は近いし、水もあり、河岸段丘の上は住居跡があるのである。

さて大通りを抜けて、川に通ずる細道をたどると、雑木林の中に、それはあった、

早速掘り返すのである。地層はその下に縄文の地層が出てくると、黒曜石のやじりや石斧、そして、縄文土器の破片などが出始めるのである。

まさにトレジャーハンターの気分である。

採取した土器石器は、早速川に下って川水で洗淨すると、くつきりと縄文が現れる。

また、石器はその打痕が表れる。

そうして持参の袋にそれらを入れて持ち帰るのである。

あの河岸段丘は今思えば国有地であろうか？

いずれにしろ盗掘？であろうか？

タダ勿論それらは文化財指定などされていない、凡庸な遺跡群ではあつたらう。

恐らく今現在も遺跡には指定されていないと思う。

中学生の一時期だけで私の熱も冷めて、高校に行くとすっかり遠ざかってしまった。

ただしそれらの収獲遺物は今も我が実家の納屋のダンボール箱の中に納まってはいるが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6470s/>

わが少年の日々のかがやき（発掘編）

2011年10月3日19時43分発行